

淵

〔倭名類聚抄一 河海〕潭 唐韻云深水也、徒含反、布知名

淵 同上

〔箋注倭名類聚抄一 水土〕崇神紀、仁德紀淵、新撰字鏡瀆、同訓、按廣雅潭淵也、楚辭九章注、楚人名淵曰潭、故云又用淵字也、說文、淵回水也、从水周象形、左右岸也、中象水貌、又載周字、云、淵或省水、廣雅、淵深也、管子度地篇、水出於地而不流者、命曰淵。○中廣韻也作免、按說文、潭水出武陵鐸成王山東入鬱林、非此義、說文又云、覃深也、轉爲深水字、俗从水作潭也、與潭水字自別。

〔東雅二 地輿〕淵、讀てフチといふは、深水の義なるに似たり、フとは深也、古語にフといひしには、深い字、讀てフケなどいふは、皆語助なり、其義まへにみゆ、ク、ツは卽水也、フツ又轉じてフチといふは、土をいひてツ、ともツチともいふが如し。

〔倭訓栞前編二十六〕ふち 淵をいふ、倭名抄に潭もよみ、新撰字鏡に瀆もよめり、深水の義なるべし。

〔八雲御抄三上〕淵 いはかきふち石の廻地儀 淵 いはかたあを

〔枕草子〕淵は

かしこふち、いかなるそこの心を見て、さる名をつけんといとおかしなり、そのふち、たれにいかなる人のをしへしならん、あをいろの淵こそまたおかしけれ、藏人などの身に玄つべくていなふち、かくれのふちのうきのふち、玉淵。

〔倭名類聚抄一 河海〕淀 文選江賦注云、澠當云興反、訓與止、俗用澠、謂澠度也、與澠古字通、如淵而淺處也。

〔箋注倭名類聚抄一 水土〕與止、萬葉集多見、以用語爲名也、澠渡在山城國紀伊郡略、中文選注六十卷、唐李善撰、江賦、榜澠爲澠、注引劉遡吳都賦注曰、澠如淵而淺澠與澠古字通、此所引即是、按吳都賦、無澠字、是魏都賦之誤、魏都賦